

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772300497		
法人名	医療法人社団仁嘉会		
事業所名	グループホーム花南会津 1		
所在地	福島県南会津郡南会津町丹藤字中川原675-6		
自己評価作成日	平成21年8月29日	評価結果市町村受理日	平成21年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成21年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にかこまれた環境の中で、畑や散歩など楽しめるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は利用者本位のサービスを心がけており、利用者が可能な限り自分らしい生活を営むことができるよう、利用者の話を傾聴しながら支援している。管理者は管理者としての経験は短いですが、社会福祉の経験と当事業所での介護支援専門員の経験を活かし、何事にも前向きに捉えて事業所の運営改善に努めている。また、利用者と地域の方々との関わりを多くもてるよう、地域主催の行事への参加や外出等について積極的に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会で共有できるようにしている	「利用者主体の介護」や「常に利用者・家族の立場を考え思いやりのある介護」等の理念を掲げて、ミーティング等で理念に添った支援をしているか再確認しながら実践している。また、ミーティング時理念の唱和をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特定の行事などの付き合いの為、積極的に地域に参加していきたい お茶会などに寄って頂けるよう努めている 梅や野菜を頂いたり交流している	隣接している保育園の運動会や夏祭り、さらには町内の文化祭等に参加し交流を図っている。また、地域自治会に加入して、日常的に近隣の方との関わり(お茶飲みに行ったり、来てもらったり、野菜を頂いたり)を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設へのボランティアの受け入れや慰問活動の際、認知症についての説明をしている 十分とは言えないので機会を設けたい			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議の記録をスタッフ全員が共有し改善に努めている	行政職員、地域包括支援センター職員、地元区長、民生委員、利用者家族の出席により2ヶ月に1回定期的に開催している。その中で利用者家族については、施設の状況を知ってもらうよう、交替で出席をしていただいている。会議の中で出された意見はサービス向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加して頂くなど努めている	運営推進会議や地域のケア会議の中で情報交換を行い、連携を深めている。近隣の市で虐待死亡事件が起きたことから、地域包括支援センター職員が講師となり、研修会を開催している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会などで勉強会を行っている	利用約款に「原則として入居者に対し身体拘束は行いません。」と事業所として方針を掲げ実践している。行政機関が作成したパンフレットをもとに勉強会等を実施している。日中は玄関の施錠は行わず、自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会などで勉強会を行っている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回以上、社協担当職員が来所し、利用者とスタッフが話し合いの場を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得して頂けるような説明を心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加を呼びかけている	運営推進会議に交替で出席して頂いている。また、意見箱や家族との懇談会の中で出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会（月一回）	ミーティング、全体会議及びケア会議を定期的に行い、意見を聞くようにしている。研修を受ける機会が少ないとの意見があり、全職員を対象とした研修会（老健での実務研修）を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格試験の補助などの支援 全体会などで意見交換している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その都度、能力に応じて研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自治体主催の交流会に参加している（管理者） 職員が交流する機会はあまりない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のお話を何度も繰り返し聞いて一歩一歩ゆっくり前進している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での様子を家族等に月一回又は変化時はその都度知らせている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に合ったサービスで対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食事を家族と共にしているような関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡しながら本人の思い、家族の思いを聞きながらケアしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中でお話をしながら支援しています 自宅に行き、近所の人とお茶を飲むなどの支援 なじみのパーマ屋へ行く支援の継続	知人や近隣住民とお茶のみ等の往来、さらにはなじみの美容室に行ったり、訪問してもらったり、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話し相手になったり、同じ趣味を持って頂いたりしています 時にはゲームをしたりして過ごしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も移動先の相談員やケアマネにこれまでの生活状況など情報を伝えその後も経過を見守ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を傾聴し、職員間で話し合い、本人の意向を把握できるように努めている	普段の会話の中から利用者本人の思いや意向を把握し、それらを介護サービス計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査などの情報、日常生活の会話、家族・知人からの話など聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別に一日の暮らしの流れに沿って状況を把握できるように努めている また職員全員が把握できるように記録し、伝えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントモニタリングは本人、家族、職員が話し合いながら作成している また本人、家族の要望に応じて見直しその都度計画変更している	普段の関わりの中から、利用者本人、家族の思いや意見を聞いた上で、全職員の意見交換を行い、介護サービス計画を作成している。利用者の状態変化等、必要に応じて見直し、計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、個人ファイルに記録し、職員間で情報を共有し、対応法の検討や計画見直しを図っている センター方式を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズがあった時など職員間ですぐ話し合い、柔軟に対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での行事に踊りなどの慰問を頂き、保育所の運動会夏祭りにも参加している なじみのパーマ屋へ行くことの継続支援		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態に応じた受診や往診に努めている 個人別に主治医を選んで頂いている	本人、家族等の希望に添ったかかりつけ医を受診している。基本的には職員が付き添い、長時間の付き添いになる場合には、家族との連携協力のもと受診支援をしている。受診の結果等については家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異常時、訪問看護婦に相談しながら処置、受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連絡を密にし、バイタル測定しながら異常の早期発見に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ永眠した方はいませんがその時のための準備を少しずつしながら職員教育をうける 重度化の指針を家族に説明し、話し合う機会を作っている	入居時に重度化、終末期ケア対応について家族に説明、話し合いのうえ確認するよう努めている。職員は終末期のケア対応について、全員で老健施設において研修するなど、チーム支援に取り組めるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、知識を身につけ急変時に備えている 関連老健での研修を予定している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練等定期的に行い、職員・地域との協力体制を築いている	利用者、職員がビデオにより防災への意識の高揚を図っている。また、避難訓練には区長等の見学を得て実施するなど、協力体制の確立に努めている。	消防署の立ち会いのもとで訓練を年2回実施しているが、交代制勤務等考慮し出来るだけ多くの職員が訓練に参加できるよう、訓練回数について検討されたい。また、地域の協力体制について、地域消防団、区長等支援体制の整備を図って頂きたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声かけをしている	一人ひとりの気持ちを大切にし、その人にあった声かけや支援に心がけている。	声かけについては十分な取り組みを行っているが、プライバシーへの職員研修やマニュアルの整備がされていないので、改善されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にわかりやすい言葉で常に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつなど施設に合わせるようになってしまっている 買物に行く時はお誘いしたり、又自分から希望される方もいるので個別に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替え時はなるべく本人に服を選んで頂く ご自分でできる方は自由にして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者と職員と一緒に食事の支度をし、一緒に食べている	誕生日等に利用者の希望に添った献立を取り入れ、食材購入、調理、後片付け等職員と一緒にやっている。また、地域の季節の旬の食材、地域の差し入れ食材を献立に取り入れ、職員も一緒にテーブルを囲み楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をその人に合わせて決めている 食事、午前・午後のおやつ時には必ず水分を取る その他入居者の状態を見て水分を取って頂くように心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行う 本人に出来るだけやっていただき、その後スタッフが磨きなおしや口腔内の状態を見ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方は自ら行っています (パッド交換等の支援は個別に行っています) 尿意ない方は時間を見て声かけし介助しています	排泄チェック表で利用者の排泄状況を確認し尿意、便意等の仕草、サインを職員全員が共有し、一人ひとりにあった支援と自立に向けた取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり、水分を多めに摂取したり、日常生活の中で歩行等の運動したりと支援しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴をしています 急がずゆっくりと入浴支援を心がけています お一人ずつ入浴して頂いている	週3回(日曜日を除く本人の希望日)の入浴回数は決まっているが、希望により入浴時間の変更や回数を増やす等、利用者に合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇の時間にはそれぞれ居室で過ごしたりできるよう支援しています 個人に合わせてそれぞれ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を表記したファイルを作って誤薬のないようにしています 定期処方の際には内容を再確認し、変更がある時には職員間で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや野菜作り、裁縫、買物等希望にそった支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、天候などを考えて農作業をしたり、散歩に出かけたりして健康、体力維持を支援している なじみの床屋に行ったり、選挙を行ったり個別に対応している	本人の思いに添った外出(日常的な散歩や墓参等)を支援しているが、より多くの希望に添った支援が出来るよう、1日の生活の流れ等について、職員全員で見直しに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設預りの方が多い お金を所持されている方は本人が管理し、買物希望時には同行し、支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には電話をかける支援 手紙郵送等の支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車イス等の移動に危険がないようにしつつも手作りのものを取り入れている	共用空間には利用者と職員が作成した手作りの装飾がなされ、家庭的な雰囲気が感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな場所で過ごしているベンチを置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	本人や御家族の方が希望されている馴染みの物や私物をお持ちになり居心地よく過ごして頂いている自由にアレンジしている	写真や家族の供養物等利用者の希望に応じた物を持ち込み、自分の住まいらしく、生活感のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が今まで生活してきた中で自分の得意とする事(掃除、調理、畑仕事、買物等)でできることは参加して頂き支援していますできることを24時間アセスメントシートを活用している		